

人 事 異 動

《 採用 》

(教官の部)

- 3.1 唐須 教光 (英語 講師)
 4.1 金森 誠也 (ドイツ語 教授)
 久野 昭 (比較文化研究 教授)
 河原 明 (情報行動基礎 助手)
 5.1 石山 忠治 (基礎科学研究 教務補佐員)
 5.18 中澤 潤 (人間行動研究 教務補佐員)
 9.1 佐藤 信行 (比較文化研究 教授)

(事務の部)

- 4.1 新谷 留實 (環境科学)
 西田 優子 (用度係)
 4.18 南 治志 (用度係)
 村中 正志 (用度係)
 4.20 中村 幸夫 (学務第二係)
 8.16 松村いく子 (厚生補導係)
 9.1 津和崎淑子 (庶務係)
 9.5 増田 直子 (用度係)

《 昇任 》

(教官の部)

- 4.1 頼 祺一 (日本研究 助教授)
 大学教育センター講師より
 前田 利昭 (アジア研究 助教授)
 総合科学部講師より
 内山 敬康 (情報行動基礎 教授)
 京都大学工学部助教授より
 水上 孝一 (情報行動基礎 教授)
 工学部助教授より
 竹之内勝美 (基礎科学研究 助教授)
 総合科学部講師より
 倉石 晉 (自然環境研究 教授)
 東京大学教養学部助教授より
 山本 雅 (英語 助教授)
 総合科学部講師より
 西田 芳郎 (保健体育 教授)
 医学部助教授より
 小村 堯 (保健体育 助教授)
 総合科学部講師より
 5.1 渡部 三雄 (基礎科学研究 教授)
 東北大学理学部助教授より
 8.1 羽田野三郎 (情報行動基礎 教授)

- 総合科学部助教授より
 重中 義信 (情報行動基礎 教授)
 総合科学部助教授より
 佐田 公好 (自然環境研究 教授)
 総合科学部助教授より
 坂本 公延 (英語 教授)
 総合科学部助教授より
 8.10 安田 喜憲 (自然環境研究 助手)
 総合科学部教務員より

(事務の部)

- 4.1 木村 俊雄 (事務長補佐)
 経理部主計課総務係長より
 藤川 行平 (経理係長)
 用度係用度主任より
 今田 能之 (学務第二係学務主任)
 学務第二係より
 久田 知明 (学務第一係学務主任)
 学務第二係より

《 配置換 》

(教官の部)

- 3.1 田代 嘉宏 (基礎科学研究 教授)
 岡山大学教養部教授より
 4.1 南 不二男 (日本研究 教授)
 東京外国語大学教授より
 日南田静真 (社会文化研究 教授)
 北海道大学経済学部教授より
 森 利一 (社会文化研究 助教授)
 琉球大学法文学部助教授より
 荒木 博之 (英語 教授)
 宮崎医科大学教授より
 安藤 貞雄 (英語 教授)
 島根大学文理学部教授より
 米重 文樹 (ロシア語 助教授)
 埼玉大学教養部助教授より
 5.1 豊島 喜則 (自然環境研究 助教授)
 東京大学生産技術研究所助教授より

(事務の部)

- 4.1 平田 芳土 (人事係長) 庶務部人事課
 給与第二係より
 植野 英明 (用度係) 医学部附属病
 院医事課収入係より
 大倉 信明 (用度係)
 学生部厚生課保健係より

岡崎 知 (学務第二係) 医学部附属病
院総務課庶務係より

木原 英 (情報行動科学)
教育学部幼年教育係より

岡 千代子 (環境科学)
理学部化学科より

6.1 野村ミズエ (環境科学)
経理部経理課支出係より

《 転任 》

4.1 島田 文隆 (厚生補導係) 広島商船高等
専門学校学生課学生係より

《 停年退官 》

4.1 後藤 陽一 (日本研究 教授)
松浦 道一 (英米研究 教授)
和田 辨 (比較文化研究 教授)
高橋 正之 (情報行動基礎 教授)
久保 良敏 (人間行動研究 教授)

《 辞職 》

(教官の部)
8.31 今堀 誠二 (アジア研究 教授)
(事務の部)
3.31 森田 啓子 (地域文化)
4.1 梶山 善範 (庶務係長)
7.1 水野 英子 (厚生補導係)
8.31 小方 鈴子 (環境科学)

《 昇任 》

4.1 沖永 甫 (事務長補佐)
東雲分校事務長へ

《 配置換 》

(教官の部)
4.1 坂口 昇 (英語 教授)
東雲分校教授へ
小野 和人 (英語 助教授)
九州大学教養部助教授へ
丹辺 文彦 (ロシア語 助教授) 名古屋
屋大学語学センター助教授へ

(事務の部)

4.1 野田 里司 (経理係長)
工学部用度係長へ
山本 孝夫 (用度係) 医学部附属
病院管理課用度係へ
浜田 米充 (学務第一係)
庶務部庶務課庶務係へ
佐伯 暢彦 (学務第二係長)

入学主幹付入学試験係長へ

神尾 博 (厚生補導係)
庶務部人事課任用係へ

藤坂 素子 (厚生補導係)
庶務部人事課任用係へ

河田 礼子 (情報行動科学)
理学部化学科へ

井川 洋子 (環境科学)
理学部化学科へ

古屋 裕子 (環境科学)
教育学部教育学科へ

4.19 桑原 勝己 (経理係)
工学部庶務係へ

6.1 阿式 淳一 (環境科学)
経理部経理課用度係へ

9.1 金子ふじえ (庶務係)
文学部庶務係へ

《 部内配置換 》

4.1 蓮池 寿夫 (庶務係長) 人事係長より
伊藤 正浩 (用度係) 厚生補導係より
塚本 英子 (地域文化) 用度係より
9.1 西田 優子 (環境科学) 用度係より

《 改姓 》

4.17 灘 啓子 (保健体育) 旧姓 石田
4.20 大林 留實 (環境科学) 旧姓 新谷

海 外 渡 航 者

(出張および研修)

- | | |
|--|--|
| <p>高橋 正之 (情報行動基礎 教授)
 渡航先 オーストラリア
 目的 交通工学の研究
 期間 52.3.17~52.4.1</p> | <p>塚田 松雄 (自然環境研究 教授)
 渡航先 大韓民国
 目的 韓国における環境変遷史の調査
 期間 52.7.1~52.8.15</p> |
| <p>森 祐二 (情報行動基礎 助教授)
 渡航先 アメリカ合衆国, カナダ
 目的 国際研究会出席
 期間 52.3.15~52.3.31</p> | <p>坂本 公延 (英語 教授)
 渡航先 アメリカ合衆国, 連合王国, フランス
 イタリア, オーストリア
 目的 英米創作論の研究
 期間 52.8.23~53.8.22</p> |
| <p>岡本 哲彦 (基礎科学研究 教授)
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 金属および化合物の磁性の研究
 期間 52.3.10~53.3.9</p> | <p>小野 寛晰 (情報行動基礎 助教授)
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 計算機構の数学的研究およびプログラムの正当性の検証, システムの共同開発
 期間 52.8.6~52.9.15</p> |
| <p>今井日出夫 (自然環境研究 教授)
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 日米科学セミナー出席
 期間 52.5.13~52.5.21</p> | <p>佐藤 道郎 (ドイツ語 助教授)
 渡航先 スイス, ネパール, パキスタン, イラン, インド, トルコ, フランス, ドイツ連邦共和国
 目的 チベット仏教資料の研究
 期間 52.8.15~52.9.26</p> |
| <p>山下 和男 (自然環境研究 助教授)
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 日米科学セミナー出席
 期間 52.5.13~52.5.21</p> | <p>清水廣一郎 (ヨーロッパ研究 助教授)
 渡航先 イタリア, マルタ, スペイン, フランス
 目的 地中海の島嶼における文化交渉の影響の調査研究
 期間 52.8.25~52.11.22</p> |
| <p>荒木 博之 (英語 教授)
 渡航先 大韓民国
 目的 国際民俗学会出席
 期間 52.6.17~52.6.23</p> | <p>塚田 松雄 (自然環境研究 教授)
 渡航先 連合王国
 目的 第10回国際第四紀学会出席
 期間 52.8.17~52.8.30</p> |
| <p>重中 義信 (情報行動基礎 助教授)
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 第5回国際原生動物学会出席
 期間 52.6.23~52.7.8</p> | <p>小谷 英文 (学生相談室 助手)
 渡航先 アメリカ合衆国, 連合王国
 目的 心理療法に関する日米比較研究
 期間 52.9.10~54.9.9</p> |
| <p>小林 惇 (人間行動研究 教授)
 渡航先 フランス, ドイツ, オランダ, ベルギー
 目的 第27回国際生理科学会出席
 期間 52.7.16~52.7.30</p> | |
| <p>福居 和彦 (ドイツ語 助教授)
 渡航先 ドイツ連邦共和国
 目的 ゲーティンスタイトウト夏期講習参加
 期間 52.7.9~52.8.5</p> | |
| <p>前田 渡 (情報行動基礎 教授)
 渡航先 アメリカ合衆国
 目的 ミドウエスト学会, ソフトウェア研究
 期間 52.7.8~52.9.8</p> | |

昭和52年度下記委員会委員

○コース・講座委員会

(委員長)松尾博 渡辺則文
志邨晃佑 高崎禎夫
志村賢男 小林惇
岡本雅典 桧原忠幹
多井義郎 小井手土陽男
安藤貞雄 高本友彦
中峯照悦

○学務委員会

(委員長)中峯照悦 深萱和男
丸山孝一 甲斐祥郎
上里一郎 根平邦人
佐久間元敬 保田茂次郎
佐田公好 竹之内勝美
三浦省五 嶋屋節子
菊地邦雄 岩村聡

○就職委員会

(委員長)藤原健蔵 門秀一
陣崎克博 山崎俊雄
舟場正富 兼田正男
安田三郎 鈴木達彦

大内侃 藤本黎時
宮原満男 山田浩
金田晉 村上誠
日南田静真 水上孝一
保田茂次郎

○学生生活委員会

(委員長)鈴木修次 村上誠
前田利昭 今中比呂志
田村和之 黒川正流
井上千吉 板野暢之
好村滋洋 稲田勝彦
山本雅 高本友彦
大滝敏夫 藤井博信
小谷英文

○広報委員会

(委員長)沢田和夫 水島裕雅
芝田進午 小野寛晰
岡野正義 橋本功
福田幸夫 北村靖治
学生「飛翔」編集委員 13名

編集後記

編集委員会

今年総合科学部ははじめて1年から4年までそろいました。新しく学部長も変わり、今までの4年間を創設第I期とするなら、これからは新しく第II期いよいよ学生、教官が一体となってわたしたち自身の手でこの「総合科学部」という新しい学部をつくっていく時期だと思えます。

この期にあたり、学部誌「飛翔」は第7号を発行します。今号の大きな特徴は、まず今までの号は学部内のごく一部の有志によって作られていたのに、今号では各学年、各コースからそれぞれ1名以上の編集委員がでてつくりあげてきたということです。そして去る7月上旬 編集委員会として1泊2日の合宿をもち、真摯な討議を重ね、今後の「飛翔」の進むべき方針を決定しました。その方針とは「今ある学生の意識を基盤とし、学生の視点で総科を考えていく」ということです。この方針をもとに、わた

したちは定期的に週一度編集委員会をもち、その場で、各学年、コースでは今何が問題となっているのか。それをどう解決したらいいのか。ということをお話し合い、企画を考えてきました。

そうした場で環境科学コースの問題がクローズアップされてきました。みなさんも御存知のように、環境科学コースの3年生が自分達のコースについて自分達なりに考え、よりよいコースをつくるために先生方へ要望書を提出したのです。わたしたちは先の方針に従い、「飛翔」とはよりよい学部づくりをめざし、学部全体で問題を考えていくための雑誌であるという立場に立ち、環境の3年生にこの場を利用し、より多くの人といっしょにその問題を考えようとよびかけました。はじめのうちは彼らも同意し「総合科学部の4年めを考える」という特集として環境の問題をとりあげることになりました。

しかし新聞で報道され、思いのほかまわりに大きな波紋をなげかけていたため、これ以上大きくなるのは好ましくないとして、環境3年生から、要望書に関する記事の掲載は延期してほしいと申し入れがありました。理由としては、3年生自身の内部でもまだはっきり意見がかたまっていず、今は教官側と自分達との間の主体的な話し合いを重ねるべき時であると判断したからだそうです。しかしこの問題は環境3年生だけの問題でなく、直接的には環境の2年生、またこれから環境へ進もうとしている1年生の問題でもあるし、他コースのものにとっても、これからそれぞれ自コースをつくりあげていく上でのいい見本となりうる学部全体の問題である。だから飛翔にのせて全体化した方がいいのではないかと、思うのです。

この点を環境の3年生にわかってもらうため、何度も何度も話し合いの場をもってきたのですが、ついに今まで同意を得ることができませんでした。

以上の事情により環境科学コース問題については計画していたものに比べると非常に貧弱なものになり、今7号全体としても先生方の研究発表とか大学院構想とかという、非常に「アカデミック」な研究誌というおもむきのものになってしまいました。もちろんこういう面を決して否定するわけではなく、積極的に今後もどんどんおしすすめるべきだとは思いますが、わたしたちはそういう面だけでなく、これからの新しいわたしたちの総合科学部をつくりあげるための問題提起、討論の場としての「飛翔」という面も付与してゆきたいと思っています。学部内にある問題点を決してあいまいにすることなく、1つのコース内の問題でも他コースの人といっしょに考えてゆける点は全員で考えよう。そうしたわたしたち全員の文字通り「学部誌」としての「飛翔」にしたいと思うのです。

—オワリー

皆さん、現在の大学に疑問を感じませんか。そういう方に宇井純・生越忠共著「大学解体論」をおすすめします。総合科学部を含めた大学を考える材料を見つけれられると思います。

R(4)

そろそろ、みんなして、あるいてゆくと、地面が根っこごと、ごっそり、くさりおちている……そんな時がくるかもしれん、ぼちぼちゴミ屋でも、やらんとあかんかな。

H(4)

夏のあとには秋が、冬のあとには春が。そうしてふかく根をはってゆきたい。

Y子(3)

何かものを一つつくることのむずかしさをつくづくかんじました。

I(3)

学部創設の理念は、私達が目ざすべき灯なのであろうか。それとも幻にすぎないのでしょうか。

K子(3)

自分自身そうなのですが、相互批判や交流の中身を置くこと、そうして伸びてゆこうとすること、私達はまだまだへたとおりました。

N子(3)

秋風にならんでゆれてるピンクのコスモス。お互いのやさしさを通じあえたらどんなにあったかくなれるでしょう。

T子(3)

編集委員会の独走の感を免れえません。今度こそ飛翔を学部のものに……

S(3)

学部長もかわり、来年には最初の卒業生を社会に出すことにより総合科学部は転換期を迎える。この転換期をよりよい方向へもっていくかどうかは、学部の体制もさることながら一人一人の学部生の双肩にかかっているだろう。

K・T(2)

涼しい夏と暑い秋、どこか調子を乱しながらも、はじめての試験に追いまわられています。

邦(1)

いろいろな意見をまとめて一つのものを創り上げるといふ作業は難しいけれどいいもんですね。

文(1)

西のはてから出て来た田舎者には、この広島は大きな街です。人も車も情報も多いし……つかれマス。

浜ヒコ(1)

さよならでもなく去っていく肩に冷たい広島風のマンモス(4)

